

発明王に俺はなる

R4.11.25 Friday 【心を育む生徒指導通信No7:通算50号】

作成者・教諭 花園修兵



踊る暇があったら発明してえ
歌う暇があったら発明してえ
ライブのブッキング蹴って発明してえ
そんな発明王にオレはなる
踊るエジソン 自尊心
歌うエジソン ジソン心



水曜日のカンパネラ「エジソン」

最近のミュージシャンや歌というものについていけず・・・

ただ、家では小学生の息子たちがどこからか覚えてきた歌を口ずさみ、その独特なテンポと重なる歌詞が頭から離れず・・・ああ今はこんな歌が流行っているのかと、つつい昭和・平成の曲を好む私にとっては令和の曲が新鮮で、たまに違う曲を聞いてみるのもいいものだなと感じる今日この頃であります(笑)

さて、生徒指導通信もはじめてから今回で通算50号となりました。

この生徒指導通信もはじめて頃から比べると、おもしろいもので字体やレイアウトなどが変化していつていることに気がきます。上記の曲も昭和・平成ではなく、令和という時代だから生まれた曲のように感じます。

今回のテーマは「発明王に俺はなる」です。

皆さんは発明と聞いて誰が思い浮かびますか？ 今の世の中が色々なモノ・サービスによって満たされていることを考えると、人は絶えず新たな発明を繰り返しながら、私たちの生活を豊かにしてきたことがわかります。今回はその発明やひらめきについて一緒に考えていきましょう。



日本講演新聞第2950号 魂の編集長 水谷もりひと氏より
致知出版社 1日1話読めば心が熱くなる365人の生き方の教科書
国際未来科学研究所所長 浜田和幸氏「エジソンの発想法」より

まずは、皆さんもご存じ発明王のエジソンの話を見ていきましょう。

エジソンは、肉体や精神、宇宙などに対し、独特の世界観のようなものを持っていて、自身の発明の原動力についてこう述べています。「人間、自然界全ての現象は、我々の思いもよらぬはるかに大きな未知の知性によって運命づけられている気がしてなりません。私自身も、これらのより大きな力によって動かされて、数多くの発明を成し遂げることができました」と。

エジソンはこの「はるかに大きな未知の知性」のことを「リトル・ピープル・イン・マイ・ブレイン」と呼んでいます。つまり、発想の原点である1%のひらめきの声を聞くことが大事であると言っています。「ひらめきを得るためにこそ努力はするべきなのに、このことをわかっていない人があまりにも多い」とも・・・

皆さんにはそんなひらめきがありますか？ここからは、エジソンの発明や研究に行き詰った時にどうしたかを見てみましょう。その行動がおもしろいんです。

エジソンは、発明や研究に行き詰ると、海辺に行き、釣り糸を垂れるのが常だったそうです。ただし糸の先に餌はつけません。潮風に吹かれ波音を聞き、自然の中に身を置くことで、不思議と頭を悩ませていた問題の解決策が浮かんでくるというのです。自然界や宇宙から流れてくる未知の知性のアイデアをキャッチし、新しいひらめきを釣る。エジソンの釣りには、そんな意味が込められていたそうです。

次にNHKテレビで「ひらめき」をテーマとした番組に芥川賞作家の又吉直樹さんの脳を最先端のMRIで解析して、それを京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥さんが解説していた話です。山中さんが注目したのは脳ではなく、その内部に配線ケーブルのように張り巡らされている「シナプス」と呼ばれる1千億本もの神経細胞でした。それらは電気信号によって、ありとあらゆる情報のやり取りを行っています。番組のテーマは「ひらめきはどんな時に起こるのか」でした。それを又吉さんの脳の状態で調べていきます。

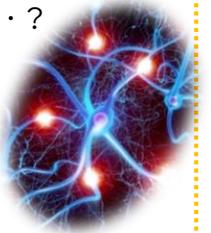
創作活動をしている又吉さんが何かひらめきを感じた時、脳内では広い範囲で神経細胞が活発に動いていることが分かりました。では皆さん、どういう時にそのような状態になっていたと思いますか・・・？

答えは、「ボーっとしている時」でした。

さらに、これは誰でも「ボーっとすること」で、その脳の状態に近づけることも分かりました。

実はボーっとしている時、脳は活動をやめているわけではなく、神経細胞がじわじわと脳内の広い範囲に活動を広げているというのです。

その結果、それまでバラバラに散らばっていた無数の「記憶の断片」が繋がりはじめ、思わぬ「ひらめき」が生まれやすい状態になるそうです。



似たような話で昨年「東大生、京大生に一番読まれた」と脚光を浴びた外山滋比古さんの「思考の整理学」の冒頭でグライダーと飛行機の違いについて述べています。

グライダーは大空を音も立てずに優雅に飛べるが、自分の力で空に舞い上がることができないし、飛び続けることもできない。それに対してジェットエンジン搭載の飛行機は自分の力で舞い上がることも、飛び続けることもできる。知識を受動的に得るのに必要なのが「グライダー能力」で、自分で物事を発見・発明するのに必要なのが「飛行機能力」 この二つの能力のバランスが大切だと言います。

外山さんは「グライダー人間」に如何にエンジンを搭載するか、持論を展開しています。その一つが「アイデアを生み出す時間を作る」ということです。「見つめる鍋は煮えない」という外国のことわざがあるそうです。「まだかまだかと鍋を見つめるのではなく、しばらく放っておけ」という意味のようです。

人間の脳も考えすぎると思考力が下がります。そういう時は、何も考えない無の状態をつくるのがいいそうです。例えば、ボーっとするとか、寝るとか・・・登場した人物すべての行き着くところは同じでした。

最後に、エジソンは研究所で行き詰ったエンジニアにこんなアドバイスをしています。

「問題は君の考え方にある。大事なことは、頭の中に巣食っている『常識』という理性をきれいさっぱり捨てることだ。もっともらしい考えの中に新しい問題解決の糸口はない」と。

皆さんどうでしたか？ さすがに授業中にずっとボーっとしたり、眠ってしまったらダメですよ(笑) そうではなくて、自分の考えが行き詰ったりした時に頭の中をクリアな状態に整理してみることが大事なかもしれません。そして常識にとらわれず、自分から主体的に物事を見つめ、リトル・ピープル・イン・マイ・ブレインがあなたを発明王にするかもしれませんね(笑)